

第2学年 研究だより

単元名

生活科

こころをこめてそだてよう ぐんぐんそだて わたしのやさい

思いや願いをもつ



目標を立てる

トマトとキュウリを栽培している児童に「どんなふうに育ててほしいですか」と尋ねると、「元気に、ぐんぐん、おいしく、背が高く育ててほしい」といった様々な願いが出てきました。

そこで、『野菜名人』の話を聞いて、もっとお世話を上手にしよう」という目標を立て、NPO法人大田花とみどりのまちづくりの方に御協力いただき、野菜がよく育つためのポイントを学びました。

活動や体験をする



観察の視点をもつ

「野菜名人」の話を聞く前に、野菜のどこに気を付けて観察すればよいかについて、予想をしました。「葉っぱの色を見れば、元気かが分かると思う」、「茎がまっすぐシャキンとしていれば、栄養が届いていると思う」、など、これまでの学習や経験を基に発表しました。

そしていよいよ「野菜名人」の話を聞きました。今回は、児童の質問に答えていただいた様子を動画に撮り、教室で見ました。

感じる・考える



視点を広げる

自分の予想と比較しながら、動画を見ました。初めて知る情報があり、観察の視点が増えました。「そういうところも見ればよいのだと分かりました」と多面的な見方の獲得を実感した児童や、「よく観察をしながら世話をすることが大事だと思いました」と総合的に考えた児童がいました。

特に、水遣りの量を調節するために、天気の様子も観察することや、葉が病気になっていないか、表面の色の変化を見ることが印象に残った児童が多かったです。

表現する・行為する



獲得した視点を活用する

研究授業当日は、あいにくの雨で、外で観察をすることができませんでした。動画を見て知った情報を確かめようと「今すぐ見に行きたい!」という児童がたくさんいました。

天候のよい別の日に、外に出ると、本時で獲得した、葉や茎、花など、理科の学習につながる視点を活用しながら観察する姿が見られました。

今後も、見方・考え方を1つずつ広げていき、それらを活用しようとする姿を育てていきます。



講師の先生より

立正大学 講師 清水 一豊先生

- ・授業の最後に、動画を見て知った情報を確かめようと「今すぐ見に行きたい!」と言い、外にある野菜を見ようと、窓の近くに集まった児童の姿が、本時の学びの成果を表していました。
- ・生活科は、体験と思考、表現が一体となる学習です。児童の思考の質を高めるためには、体験を充実させることが大切です。
- ・動画でインプットした情報をアウトプットする体験（観察）が不可欠です。体験を通して、情報が知識となります。多面的、総合的に考える力を育成するために、これからも、体験や表現の機会を大切にするとよいです。